

# 経済為替ニュース

SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED FX NEWS

第2284号 2015年11月16日（月曜日）

## 《 Attack Probe Spreads 》

二つの事を気にするマーケットになりそうです。一つはパリで起きた大規模かつ組織的なテロのその後（パリは停止状態にあり、欧州全体を巻き込んだ政治的、経済的影響が懸念される）と、原油価格で再びバレル40ドルを割りそうになって「下げ」が鮮明になってきた商品相場の行方。

パリのテロ事件は今朝段階で死者が132人に増加した。懸念されるのは「8番目の犯人」がおり、その犯人が依然として逃亡しているのではないかとの疑いがあること。フランスの警察の発表で明らかになった。この「8番目の犯人」がどのような形で犯行に加わったかはまだ不明な点があるが、レストランを襲撃後に自爆した身元判明の犯人の兄弟（ベルギー在住のフランス人）の一人とも言われている。今回の襲撃犯は3グループに分かれ、いずれもベルギーで組織されたとされる。

犯人グループがISIS関連であることはほぼ間違いないところまで証拠が揃ってきている。今朝の報道によれば、フランスとアメリカの当局は「パリで事件を起こした犯人達は、シリアのISISのメンバー達と連絡を取り合っていた」と述べている。つまり明らかにシリア・イラクの一部を支配するISISとの連携の下で事件を起こしたと言うことだ。そのISISは事件を引き起こしたことを犯行声明で明らかにすると同時に、「これは一連の攻撃の第一波に過ぎない」という趣旨の事を述べている。

事態は全体的にはエスカレート方向にある。今朝のWSJによればアメリカは、「フランスとの連携を強め、フランスがシリアで報復攻撃（空爆）をする際のターゲット絞り込みに必要な情報を共有することにした」と報じている。オランダ大統領の事件後の発言をそのまま信じるならば、フランスは怖じ気づくことなくISISに対する空爆を強める方向。実際に現地（シリア）日曜夜の段階で、テロ事件後に初めてフランスはシリアでのISIS支配地域、特に陣地に対する空爆を実施したと報じられる。世界のマーケットは「フランス支援」の気持ちを持ちながらも、事態の拡大を不安な気持ちで見守ることになる。

一連の事件の原因となっているシリア情勢は実に複雑だ。そもそも問題の発生は、地球温暖化による中東での降雨量減少によってシリアの多くの地域で早魃が広がったのが原因との見方もある。早魃で食料が調達できなくなった民衆が動き、それを対処できなかったアサド政権に対する反発が起き、国内情勢（政治、軍事など）が割れた。今でも「シリアの今後の政治体制」については、国内ばかりか米ロ欧の間でも思惑の違いが残っていて「そ

れによって周辺国が ISIS 撲滅で協力体制を敷くことが出来ない」という現状だ。ロシアはアサド政権の存続がシリアの今後を安定化させる上で重要と考えるが、アメリカはアサド政権の退陣が必要と考える。

アメリカもロシアもフランスも「ISIS に狙いを絞った空爆」はしているが、「空爆だけでは ISIS を敗北に追い込めない」というのが一般的な見方だ。と言って、地上軍を派遣する国はない。今回の事件は ISIS が少しも力を落としていないことを明確にした。「ISIS 要人（ジハーディ・ジョンなど）殺害は続いているが、それでは ISIS の力は落ちない」との見方も強い。ISIS はシリア難民（今年だけで 81 万人も欧州に入ったとされる）の中にメンバーを忍び込ませ、フランスやベルギーの協力者、同調者を組織して（武器調達、犯人の移動など）事件を起こしたとされる。ISIS の「事を起こす力」はシリアでの米露やフランスの空爆では、少しも落ちていない。

トルコで開幕した G20 やフィリピンでの APEC では「テロ対策」が話し合われるし、強い声明は出るだろう。しかしシリア情勢の安定に繋がる動きが直ぐに出る見込みはないし、よって同国からの難民は今後も減らない。ポーランドは既に「難民受け入れ拒否」を EU に突きつけた。今後フランスの国内でもオランド大統領に対する批判や欧州の移民政策（積極的受け入れ）に対する批判が高まる可能性がある。ドイツでもメルケル首相への支持率は大きな低下傾向の中にある。「押し寄せる難民とどう向き合うのか」は欧州が直面する大きな課題であり続ける。これはやや経済活動が活発化してきた欧州にとっても、大きな問題だ。この週末のパリは、「非常事態宣言」もあって停止状態だった。

### 《 markets under pressure 》

郵政関連会社の上場でマネーの動きが活発化し、株式市場が全体的に活発化した東京市場だが、世界の中に置いて見ると先週は「例外的なマーケット」という位置付けだった。ニューヨークを含めて世界の主な市場が懸念し、そして下げ基調になったのは「商品相場の新たな、そして底が見えにくい下落」だ。それがマーケット全体に対する重石となっていた。実際にソフト、ハードを含めた商品の相場下落は、あらゆる指標から「新たに下げが始まった」と言える状況だ。個々の商品の相場の変動には触れないが、中国の景気悪化があらゆる形で世界の一次産品相場下落に関与している。昨夜の NHK の BS の番組（ドキュメンタリー WAVE とか言った）では「苦境に立つニュージーランドの酪農」が取り上げられていて興味深かった。下がっているのは銅や金相場や原油だけではない。中国の景気減速故に、牛乳の世界相場も大きく下げている。

実際に国際機関は世界経済の成長見通しを引き下げている。対して G20 など国際的な会議が特効薬を持っているというわけではない。ということは、明確な即効性のある対策がないままに、世界経済は暫く低成長を続ける可能性が高いということだ。それにも関わらず、世界の金利には上昇圧力がかかっている。アメリカの 10 年債の利回りは先週 2.28% まで上昇して終えた。これは 7 月以来の高さだ。FRB が 12 月にも利上げする見通しであるた

めに、世界の長期金利が上に引っ張られている。

もっとも、金利が上昇基調になったアメリカでも「このまま金利が上がり続ける」と見る向きは少ない。今年に残る期間は上昇圧力がかかっても「2.25%から2.5%の間」（10年債利回り）との見方が強い。これがドルの一段の上昇を抑えている。先週のドル・円の動きを見てもドルの上値は重い。もっともユーロは安い。12月に「新たな緩和」を控えていると思われているし、今はテロ発生の現場というイメージがあっても買えない通貨だ。今朝のユーロ・円は131円台の前半となっている。ユーロは対ドルでは1.07ドル台だ。今週のマーケットも商品相場動向と、「パリでの大きなテロとその後」を巡る動きに神経をとがらせながらの展開となろう。

-----  
今週の主な予定は以下の通り。

11月16日（月曜日）	7～9月期 GDP 速報値 10月マンション市場動向 米11月ニューヨーク連銀景気指数
11月17日（火曜日）	オーストラリア中銀政策理事会の議事要旨 独11月ZEW景気予測指数 米10月消費者物価 米10月鉱工業生産
11月18日（水曜日）	金融政策決定会合 中国10月主要70都市の新築住宅価格動向 16日時点の給油所の石油製品価格 10月訪日外国人客数 米10月住宅着工 APEC首脳会議（～19 フィリピン）
11月19日（木曜日）	米FOMCの議事要旨（10月27・28分 4:00） 10月貿易統計 10月粗鋼生産量 金融政策決定会合の結果発表 黒田日銀総裁会見 米新規失業保険申請件数 米10月コンファレンスボード景気先行指数 米11月フィラデルフィア連銀景気指数
11月20日（金曜日）	米10月半導体製造装置BBレシオ 金融経済月報 10月コンビニ売上高

月曜日の早々に発表される「7~9月期 GDP 速報値」は、「マイナスになるのか否か」でまず注目を浴びる。マイナスになった場合には、「黒田金融政策の補完」に関する論議が高まる可能性がある。日銀は18日に金融政策決定会合を開く。むろん、中国の景気の先行きも注目の的だ。先週は中国の貿易統計の悪さが商品相場の動きを加速した。FRB的には利上げを予定しているアメリカからは、FOMC 議事要旨(10月27・28分)が公表される。議論の方向が改めて検証されることになる。

### 《 have a nice week 》

天気があまり良くない週末でしたが、いかがお過ごしでしたか。パリで大きなテロがあった事は既に取り上げましたが、この週末に都心を移動しているときに「やはり警備が厳しくなったな」と思いました。普段はいない場所にまで警察官が配置されていて、「これは先進国全体での傾向だろうな」と思いました。

それにしても、一般市民を相手の組織的なテロ攻撃。見境無く銃を乱射し、銃弾を再充填して撃ち尽くしたあとは腰に巻いた爆薬で自爆するという常軌を逸したやり方。イスラム過激派のテロ攻撃の一つのパターンとはいえ「人道に外れている」と思う。しかしそれがフランス国民のショックを強く深いものにしていて、そういう意味では仕掛けた方からすれば「成功」とも言えるのが極めて残念。ISIS は成果を誇っており、今後もその存在感を示すためにもテロを仕掛けてくるものと思われる。テロが世界の経済活動に大きな影響を長くにわたって与えることは稀だが、明るい材料でないことは確かだ。

週末の日本の明るい話題と言えば「プレミア 12」での日本チームの連勝ですかね。昨日もベネズエラとの攻防の最後の方を見ましたが、「よくあの状態から勝てたものだ」と思いました。楽天の抑えの松井が三塁線を抜かれて2点がベネズエラに入って4-5と逆転されてからが見応えのある展開。9回の裏に敬遠の四球で満塁となった後キャッチャーのパスボールで日本は同点。その後のまたの満塁でベネズエラは内野手を5人にしてきたが、ソフトバンクの中村晃の一打はその「内野5人」の三塁と隣の野手の間を抜いた。

決勝トーナメントに進むに当たっては「一敗くらいしておいた方が良いのでは」と思っていたが、全勝で負けたら終わりのトーナメント進出。野球での連勝はそれほど続くものではないので、逆に「大丈夫かな」と思うが、結果はもう動かせない。あとは「負ければ終わり」の一戦必勝の戦い。最後まで勝ちきって欲しい。あと3勝。それにしても「様々」なのは日本ハムの中田です。良い意味で言うのですが「パワーになっているのは彼の鈍感力」だと思う。秋山など多くの選手は顔がこわばっているのに、中田はそんな風情もない。今回の大会での中田は、確かに出てくる度にパワーを感じ、「何かしそうだ」と思う。

それでは皆様には良い一週間を。

《当「ニュース」は三井住友トラスト基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail [ycaster@gol.com](mailto:ycaster@gol.com))の相場見解を記したものであり、三井住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータ

は各種の情報源から入手したのですが、正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。  
また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》